

堺に縁ある“すずめ踊り”を絆とした人が輝き元気な地域づくり

堺すずめ踊り協賛会

会長 葛村 和正

事務局長 小泉 博則

理事 ○前田 秀一

1.活動方針・目的

「人が輝き、地域を元気に!」を合言葉として堺にゆかりの深い“すずめ踊り”を堺の市民文化として普及し、“すずめ踊り”を絆として人と人とがふれあい、喜びが満ち溢れた生きがいと住みがいのある“まち”づくりを目指すことを目的とする。併せて、“すずめ踊り”発祥の地・仙台市と“すずめ踊り”を絆として歴史と文化を共有した政令都市間の市民“文化交流”を進める。

2.活動内容

平成17年、市民活動提案を受けていただき(社)堺観光コンベンション協会が堺とゆかりのある“仙臺すずめ踊り”を第32回「堺まつり」に招聘され多くの堺市民に感銘を与えた。さらに、その発祥につながる歴史と文化の背景が話題を集め、“すずめ踊り”の普及活動と、それを機縁として“すずめ踊り”を絆とした堺と仙台、両市民の“すずめ踊り”交流が始まった。

地域や企業など、仲間づくりを中心として踊り、お囃子およびサポーター等実技を構成要素とするグループ(祭連:まづら)が主体となって「堺すずめ踊り普及会」が結成され、地域のまつりや各種団体主催行事へ自主的に紹介、普及活動を始めた。また、5月「仙台・青葉まつり」と10月「堺まつり」など、仙台市と堺市の代表的な「まつり」の機会を活かして相互に訪問し“すずめ踊り”を絆として両市民の交流が始まった。

普及活動の進行に伴い、運営上の課題として大枠の事業企画および日常的な実技普及活動の財政支援がクローズアップし、これら問題の解消を目的として支援体制として「堺すずめ踊り協賛会」が、同時に実技のスキルアップおよび普及活動に重点を置く「堺すずめ踊り連盟」が発展的に再構築され、活動趣旨を改訂し機能分担して普及活動に取り組んでいる。

活動を始めて5年を経過した昨年の第36回「堺まつり」(10月18日～19日)においては、メインプログラムの「大小路シンボルロード」大パレードで“すずめ踊り”は「堺のアイデンティティー」のグループに位置づけられ、堺の伝統行事「ふとん太鼓」とともに出演し役目を果たした。

3.他の活動団体の参考となる事例

世界の商業都市として自治・自由都市体制をしいた中世の堺のまちの繁栄を支えた“まち”衆(商人、職人)文化を背景とする“すずめ踊り”を絆として、当会は、行政(堺市・観光部、堺観光コンベンション協会)、堺商工会議所、地域団体(大小路界限夢倶楽部:第1回「関西元気」発表団体)および社会奉仕団体(仁徳ライオンズクラブ)と連携を密にして「人が輝き、地域を元気に!」を合言葉に“すずめ踊り”の普及活動に取り組んでいる。歴史と文化の背景を共有し“すずめ踊り”が発祥した仙台市(国際経済・観光部、仙台観光コンベンション協会)および「仙台・青葉まつり協賛会」と「仙臺すずめ踊り連盟」が一体となって市民文化“すずめ踊り”の普及にご支援いただいている。

4.今後の課題

- (1) 若年層への普及浸透 特に、「リズム教育」として取り組まれている「よさこいソーラン踊り」に代えて、地域性豊かな“すずめ踊り”(歴史・文化学習、リズム教育)を学校教育現場へ導入促進
- (2) 堺市内、各区(7行政区)に少なくともひとつの祭連を立ち上げ、全市普及体制を整える。

地域コミュニティ部門

合い言葉：「人が輝き、地域を元気に！」

活動の目的：

堺に縁ある“すずめ踊り”を絆とした
ふれあい、生きがい、住みがい“まち”づくり

平成22年3月12日

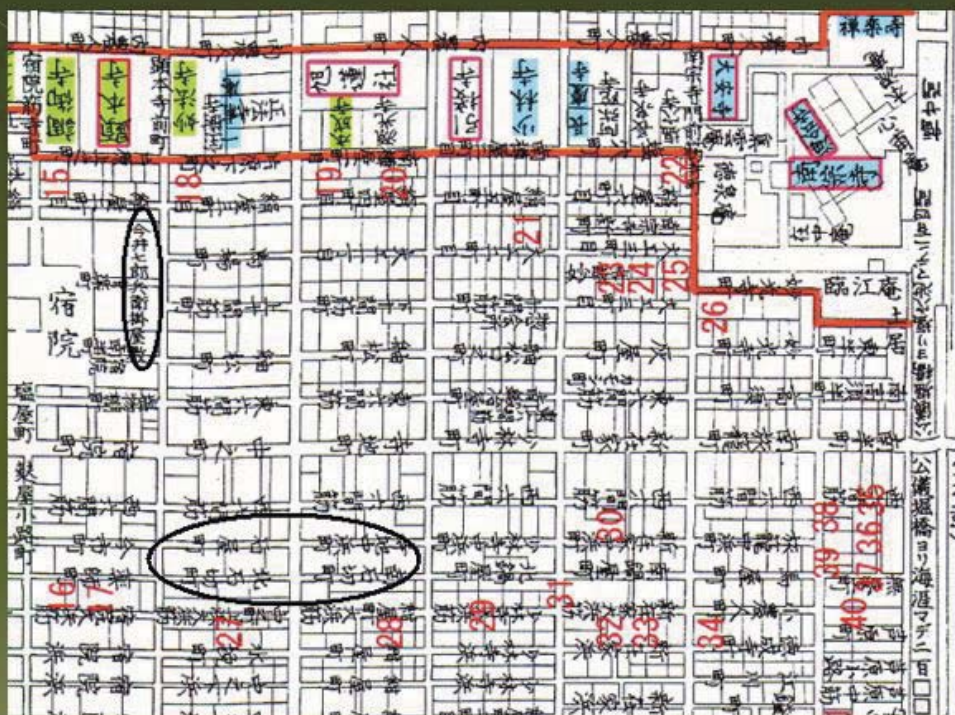
堺すずめ踊り協賛会

発表者： 会長 葛村和正
事務局長 小泉博則
理事 ○前田秀一

普及活動取り組みの背景：

◆“すずめ踊り”伝承・伝説

- ・慶長8年(1603年)、仙台城の移徙式(新築移転の儀式)の宴席で、泉州・堺から来ていた石工たちが城主・伊達政宗公の前で即興的に披露した踊り。
- ・西国らしい小気味良いテンポ、躍動感あふれる身振りから石工衆の間では、当初、“はねっこ踊り”と呼ばれ踊り継がれた。
- ・お城の構造的な秘密を知った泉州・堺の石工たちは、仙台に留めおかれ、帰郷を許されなかった。
- ・城下に与えられた地に、かつて住んでいた堺の町の名前「石切町」を付け、神社の祭礼など今日まで石工衆の子孫により踊り伝えられてきた。
- ・昭和36年(1961年)、仙台の市民の間で再び復活した際に伊達家の家紋「竹に雀」にちなんで、はね踊る姿がえさをついばむ雀に似ているとして“すずめ 踊り”と名付けられた。
- ・中世の自治・自由都市「堺」の“まち”の繁栄を支えた“まち”衆(茶人で商人・今井宗薫、石職人)文化を背景とする踊りであるところに魅かれて普及活動に取り組んだ。



「堺絵図」(元禄2年9月)より



第32回 堺まつり(平成17年10月)
主催:堺観光コンベンション協会



第1回
堺・仙台“すずめ踊り”交流

活動内容:

1. “すずめ踊り”の紹介、指導、普及による市民文化の創造

- ◆実技指導者講習による踊りとお囃子のスキルアップ
 - ・「仙臺すずめ踊り連盟」との連携による実技講習会開催
- ◆堺市内各区に少なくとも一つの“祭連”(まづら)の立ち上げ
 - ・地元小学校区を中心とした「地域講習会」の開催
 - ・地域独自練習会の支援(講師派遣)
- ◆地域まつりおよび各種団体主催事業への協賛出演
 - ・地域住民および各種団体への“堺すずめ踊り”紹介、指導、普及

2. “すずめ踊り”発祥の地・仙台市との市民連携・文化交流促進

- ◆歴史と文化の共有による堺・仙台政令都市間市民文化交流基盤強化
 - ・「会報」発行による歴史、文化、観光情報の紹介、相互交流
- ◆堺・仙台両市の誇りを知る「まつり」を活かした競演・相互研鑽
 - ・「仙台・青葉まつり」5月第3土曜日(5月15日～16日)
 - ・「堺まつり」10月第3土曜日、日曜日(10月16日～17日)

活動体制:



会長 葛村和正

事務局長 小泉博則

事務局 〒590-0905 堺市堺区鉄砲町18番地
☎072-229-2332 Fax 072-228-3858

<事業>

1. 実技連合組織「堺すずめ踊り連盟」の財政および事業企画支援
2. “すずめ踊り”を絆として仙台市との交流事業推進

<連携組織>

- ・堺すずめ踊り連盟 ― 実技(踊り、お囃子)集団・“祭連”(まづら)の自主運営組織
- ・堺市(観光部)、(社)堺観光コンベンション協会、堺商工会議所
- ・大小路界限「夢」倶楽部(第1回発表団体)、仁徳ライオンズクラブ
- ・「仙台・青葉まつり」実行委員会、仙臺すずめ踊り連盟

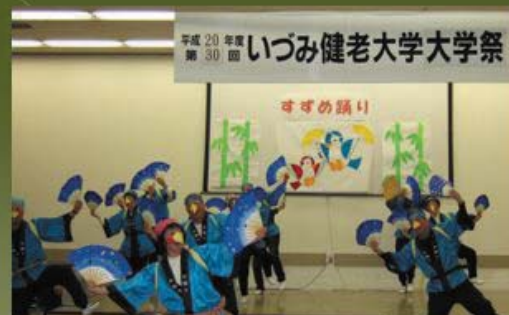
活動事例:



交流会 堺市・指吸副市長 仙台市・梅原市長



「堺まつり」大小路シンボルロードパレード



今後の課題:

1. 若年層への普及浸透

- ◎ 地域性豊かな“すずめ踊り”を幼少教育（歴史・文化学習、リズム教育）現場導入



(社福) 堺東保育園



堺市立黒山小学校 体育館竣工記念 音楽会

2. 堺市内各区(7行政区)に少なくともひとつ祭連を立ち上げ、全市普及体制整備



仙臺すずめ踊り連 実技養成講座



みはら夢雀 (平成17年2月1日堺市・美原町合併)